

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.8

ドキュメンテーション



ノート PC の返却の手続きに集まった卒業生

■ 春は節目の季節 —— 2回目の卒業生を送る ——

日本における3月は、一つの節目の季節です。平成21年3月16日はドキュメンテーション学科にとって、2回目の卒業式を迎えた記念すべき日となりました。4年生は、共に学び、共に遊んだ友人たちと別れて、それぞれの道に巣立っていきます。日本で唯一のドキュメンテーション学科で情報化時代に対応できるさまざまな知識や技術を学び、それらを社会で役立てていただきたいと思います。入学時に思い描いた大学生活の夢は、どのくらい達成できたでしょうか。自分は、これを頑張ったと云えるものが一人ひとりの胸の中に宝石のようにきらきらと光っていることと思います。学内で取得できる司書、教員免許、司書教諭、学芸員資格のほかに、在学中に「情報検索基礎能力試験」「情報検索応用能力試験2級」「初級システムアドミニストレータ試験 (ITパスポート試験)」「文書処理技能検定2級・1級」など、学外で実施される情報関係の資格試験にも挑戦して見事合格した人たちもいます。1年生の時に貸与されたノートパソコンには、鶴見大学での学生生活が凝縮されていたはず。授業や卒論、趣味や友人とのコミュニケーション、インターネットなどなど、お世話になったパソコンを最後に返却するとき、きれいに拭いて丁寧に扱ってお礼の気持ちを述べてくれたことと思います。

社会へ巣立つ4年生を見送る1年生から3年生も、今は春休みで小休止です。しかし、急速な不況の波が押し寄せる中、3年生は就職活動に頑張っています。2月9日と10日の両日開催された学内企業説明会にも大勢の3年生の真剣な姿を見つけました。一方で、企業から説明に来られた方々の中に、昨年原田ゼミの卒業生の姿もあり、社会人として立派に活躍している様子を拝見して、嬉しさとともに頼もしさも覚えました。この卒業生以外にも、時々大学の各研究室を訪ねてくれる良き先輩も多くいます。在學生はこのように自分たちの先輩との交流を深めるために、この学会の集まりをぜひ活用していただきたいと思います。

4年生には、これからの活躍を期待して、豊かな人生の門出を祝します。そして、1年生から3年生は、4月には新入生も入学してきますので、また新たな気持ちでそれぞれの目標に向かって充実した学生生活を過してください。教員一同、皆さんを温かくサポートしていきたくと思っていますので、よろしく願いいたします。

ドキュメンテーション学科主任

原田 智子 Tomoko Harada



ドキュメンテーション学科で学んだ4年間はたいへん有意義な時間でした。入学当初はパソコンにあまり触れたこともなかったので、パソコンを使う授業は苦労しました。しかし、丁寧な授業と補講があったので2年生になる時にはブラインドタッチも自然と出来るようになり、しっかりと基礎が身に付きました。3年生からはDDコースに進み、パソコンの実用的な技術や応用を学び、習得し、今では様々な面において役に立っています。パソコン初心者だった私でも4年間でこのように成長することができ、本当に充実した4年間だったと思います。 ＊浅谷紘太

ドキュメンテーション学科という、誰に言っても大抵「え、どんなことするの?」と疑問を持たれてしまう名前の学科で学び早4年、あっという間に卒業です。最近気付いたのですが、1年のときに語学や体育など様々な授業を受けていたはずが、3、4年で受けた専門の授業の中身が濃かった為か、その殆どのことを忘れかけています…。先日中国語(特に苦労した授業)の教科書を久々に開いたとき、なんだか懐かしい気持ちになりました。ここまでこれたのは、先生方、友人に恵まれたおかげです。私は勉強したこと全てが将来直接活かせることにはならなそうですが、大学で何かを調べたり、考えたりして勉強したことはきっと一生の糧となるでしょう。 ＊清野真理子

卒業論文では夏目漱石著『こころ』をXMLデータ化し、『こころ』の出版媒体ごとに異なる点を調べました。現在出版されている電子資料の中でテキストを画像付きで電子化したものには、操作性と利便性が悪いという問題点があります。この問題点を解消するため、Ajaxなどの技術を用いた操作性と利便性の向上についての提案をしました。論文を書き始める前は、これまで授業で提出してきたレポートの何倍にもあたる量の文章を本当に書き上げることができると不安に思っていました。しかし、いざ作業を始めてみると思っていた以上に書くべき項目が多いことがわかり、当初の不安は作業が進むにつれて段々薄れていきました。余裕のない状態で作業が期限前日まで続いたので、もっと早く書き始めていれば…といった反省点もありますが、卒業論文を通して他では得難い経験や知識を得ることができたと思います。 ＊山口真世

大学は勉強をする場所だ。私もこの4年間、日々勉強し続け、単位を取ることに努力を費やしてきた。しかし、私が大学生活で得たものは、将来に備えるべき知識だけではなかった。積極的に行動し、自主的に物事を行えるようになった。高校では、親切にも与えてくれた課題をこなせばよかった。しかし、大学はそうはいかない。日々のスケジュールは自分で組み、掲示板を利用しその日の情報を得て生活する。全て自分の責任で自分を成長させなければならない。大学は勉強する場所ではあるが、机に向かうだけではわからないことも学べる場所であった。 ＊本田隼一郎

4年間の大学生活は、私に大きな変化をもたらしました。親元を離れて生活をするということは、少なからず私が自立することの手助けとなったと思います。そして、交友の幅も大きく変化しました。授業やサークル、アルバイト、就職活動を通して、高校までとは違うさまざまな地域の人や、自分とは違う価値観を持った人と接することは、楽しくもあり、また学ぶこともたくさんあったとも思います。これからも、この4年間で築きあげた関係を大切にしていきたいと思います。 ＊加瀬 諭



私は当初、DDコース方面の授業にしか興味はありませんでしたが、四年間を通してパソコン操作やコンピューター知識だけでなく、LAコースの書誌学や古典の知識も学んで、新鮮な気持ちや楽しさを見つけることができました。関心のある1つのことだけでなく、他の知識も同時に学べ、自分のこれからの方向性を上げられるこの学科はとてもお得で充実していると、卒業するにあたって、改めて実感することができました。学びの間には気の合う友人たちと親睦を深め、心に残る思い出を作ることでもでき、私は本当に良い大学生活を送れたと思います。✿森麻祐子

入学した頃は正直、慣れない90分授業や長い通学時間で「この生活があと4年も続くのか…」と思っていました。しかし、それらに慣れてきて、今まで会ったことがないような様々な色の友だちも増えてくると、一日一日がとてもおもしろくなってきました。「大学って結構面白いじゃん」って思っていたら、もう卒業の時期になってしまいました。私は大学生活で一番得たものは、勉強もそうなんですけど、ここでしか感じるができない、一生に一度の楽しい時間と、いつまでも大切にしていきたい友だちでした。春からは、みんな社会人になって違う道ですが、これからもよろしくお祈いします。そして僕の両親へ、大学へ行かせてくれてありがとうございました。✿北条拓哉

4年間で1番良かったと思うことは、気の合う友達ができただけです。大学は自分から望まない友達を作りづらい環境かも知れませんが、大学生活を送るなかで友達がいることはとても大切です。この4年間でとても良い交友関係を築けて本当に良かったと思います。✿北見梨佳

今卒業を前にしてこの4年間を振り返ると毎日が忙しく過ぎていったとあらためて感じられます。それはとても内容の濃い4年間でした。大学での授業や部活動、アルバイトなど、これから社会に出て行くうえでとても良い経験をすることができました。中でも教育実習で人に物事を伝えることの難しさを知る事ができたのはとても貴重な体験でした。私にとっての大学生活というのは誰かがやることを示してくれる場所ではなく何事も自分から動いていかなくてはならない場所というものでした。その事を学ぶことができたのはとても大きなことです。✿相澤貴彦

卒業論文という言葉に、最初は戸惑いました。何をどう書けばよいのか、全く見当もつかず、手探りの状態でした。資料収集や整理、執筆や発表など、大変なこともありましたが、ゼミ旅行で草津へ行き、楽しい思い出もたくさん増えました。執筆中は辛いと感じることもありましたが、卒業論文という同じテーマに取り組んでいる仲間との共通の会話が、何よりも心の支えになりました。✿小出和佳奈

卒業生からのメッセージ

平成20(2008)年度



＊原田智子研究室

- 市川 礼乃 都道府県立図書館におけるレファレンス事例集の現状
井上 文乃 鶴見大学図書館の学生利用とサービス認知度に関する調査
—ドキュメンテーション学科の学生を対象とした場合—
金田 真奈 日経シソーラスにおける統制語の変遷
熊谷 純貴 サーチャーの仕事内容に関する調査と今後の展望
小出和佳奈 図書館とボランティア活動
鈴木 理紗 大田区立小学校の図書室における図書館サービス
豊部 祥子 中学生・高校生・大学生における活字離れに対する意識調査
仲谷 令奈 アーカイブサイトの事例調査 —「WARP」と「Wayback Machine」の比較—
野中 文菜 絵本と図書館に関する親の意識調査
—伊勢原市と南アルプス市のブックスタート事業を通じて—
本田隼一朗 インターネットの利用と著作権に関する調査・分析
森谷奈保子 図書館情報学分野の雑誌における特集テーマの傾向と分析
矢野佳奈子 大学図書館における商用データベースの利用環境



＊岡田靖研究室

- 荒木 俊之 ライトノベルの定義
相澤 貴彦 大学図書館における学生向けの図書館利用ガイドの研究
秋田谷貴志 コンピュータにおける記録媒体の歴史と比較
塙 洋輔 ライトノベルとその周辺
北条 拓哉 藤沢周平作品の映画化について
松原 拓巳 社会現象としての野球人気の衰え：新聞に見る観客動員数の変遷
芳垣修一朗 格闘技に関する書誌作成
吉川 拓郎 従来の図書館と電子図書館



＊長塚隆研究室

- 浅谷 紘太 野球の打撃フォームに関するデジタル教材の作成
木村 純 携帯電話の歴史と今後の発展
里見 俊 日本の百科事典における電子化の現状とこれから
高野 真也 Google の軌跡と展望 —他の検索エンジンとの比較—
中川 義樹 最近の事象からみた検索エンジンの比較
原川 祐一 日本の古地図のマルチデータベースの構築
源 徳鉉 野球の投球動作のデジタル教材の作成
森 麻祐子 将来のデータベース保護法制の在り方
安井 武蔵 ネット上での「賭博」行為と規制について



＊堀川貴司研究室

- 赤石 健 現代人から見た曹操の人物像
清野真理子 徒然草版本における挿絵の研究
竹村 翔太 南総里見八犬伝とその影響作
原 俊行 土方歳三の人物像
良岡淳一郎 近世後期江戸における出版の研究 —商業活動としての側面から—



✿大矢一志研究室

- 宮川 太陽 XML データにおけるリンクの一時的付加
 山口 真世 XML データ上で画像を表示する操作性と利便性に関する提案

✿伊倉史人研究室

- 大石 美穂 鶴見大学図書館蔵『続古今集和歌集』について
 大胡 昌子 鶴見大学図書館蔵伊勢物語古写本の調査
 勝又 美保 鶴見大学図書館蔵『外国書目』の研究
 北見 梨佳 くずし字の読解法の研究
 豊田 真央 デジタル辞典の作製—古典籍の調査のため—
 増田 大氣 鶴見大学図書館蔵『詞花和歌集』の研究

✿元木章博研究室

- 阿部 弘幸 授業の仕様に基づいた Web アプリケーションの有用性評価
 井上 雄貴 授業支援ツールの開発と評価—元木研究室卒業論文演習のケース—
 今西 基 インターネット広告の現状と発展予測
 荻野 達弥 パソコンにおけるデータのサルベージ方法の提案—WindowsPE のケース—
 角張 一穂 携帯電話で利用する学習支援ツールの作成と活用、評価、改善
 加瀬 諭 セキュリティアップデートに関する意識向上のための教材作成と評価
 川島那由他 スパムメールの変遷と自己防衛力の向上を目的とした教材作成と評価
 澤井 拓也 RSS を利用した授業情報提供のシステム構築・運用・評価
 鈴木可南子 Web サイトへのアクセスに対する不安要素軽減のための提案と教材作成・評価
 関根 敦子 障がい者介護者向け Web ポータル構築のための調査・提案
 中原 拓紀 シニア向けの PC 講座の現状と改善案
 長谷川 遥 パーソナルファイアウォールを利用した教材の作成と評価
 細矢 真美 視覚障がい者に配慮した Web アクセシビリティ向上のための教材開発・評価および公共図書館調査
 箭内 勇樹 違法コピーの現状調査と今後の動向



卒業論文題目

平成 20 (2008) 年度

マークアップ言語のグリーンナ

Gleaners of Markup Languages

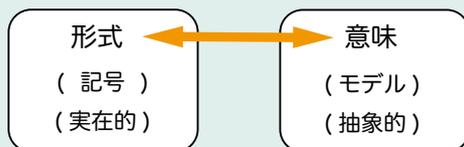
大矢 一志
Kazushi Ohya

No.4 モデル

世の中には「じゃ」「ok」のように、様々な場面で使うことができる便利な言葉があります。特に、コンピュータと関連する分野では、このような便利な言葉は多いかもしれません。例えば、授業によく出てくる「システム」「データ」「ケース」などは、日常生活でもよく使われ、その意味はかなりの範囲に及びます。ところが、このような便利な言葉の中にも、大学で使われる時には、ある特定の意味を持った言葉として使われるものがあります。例えば、ここに挙げた「システム」「データ」「ケース」なども、コンピュータの世界では、かなり明確なイメージを持って使われています。今回は、このような言葉の中から「モデル」を採り挙げてみましょう。

「モデル」という言葉を聞いたときにみなさんは、エビちゃん、ガンダム、二宮金次郎などを思い浮かべるかもしれません。ところが、コンピュータの世界で使われる時の「モデル」が指すものは、ズバリ、「意味」になります。

図1



ここでいう「意味」は、「形式」の反対語として定義されるものです。わたしたちが使う言葉は、既に(記号の姿として)形があるとして、これを形式側にあるものとし(もちろん、記号化できないこともあるでしょう。これについては別の機会にします)。これに対応するものとして、意味の世界にあるものを、コンピュータの世界では「モデル」といいます。例えば、「犬」という言葉に対応する、意味世界のものとして『犬』を想定し、これを「犬のモデル」といいます。記号『』は、意味を示すものとして使っています。

この「モデル」は、マークアップ言語にとって、大変重要なキーワードです。恐らく、初心者から中級者への境目となる項目でしょう(従って、今回の話は高校生には難しいかもしれません。すいません。)。前回の話で、マークアップ言語には、いわゆるデータ派とテキスト派があることを紹介しました。データ派の使い方を考えてみましょう。データ派の人達は、まずマークアップを付けるデータ・情報がアプリオリに(既に)存在している、と仮定しています。例えば、図2のような情報を想定してみましょう。

これは、『ジーニアス英和辞典』にある glean の項目から抜粋したものです。ここに書かれている情報を取り出してみると、例えば図3のようにまとめることができます。

図2

glean 動自

1. 落ち穂拾いをする。
2. 情報を少しずつ収集する。

図3



このように、図2から引き出せる情報・意味をまとめたものを「意味モデル」といいます。図2が形式・記述だとすると、その意味(世界)を示したものが図3になります。図3では絵図で意味が表現されています。先程のモデルの説明からすると、単純に「モデル」とも言えそうですが、この後で出てくるものと区別しやすいように「意味モデル」と表現しておきます。

では、次にこれを XML で表現してみましょう。例えば、次のように書けます。

図4

```
<項目>
<見出し語>glean</見出し語>
<文法> <分類>動詞</分類> <下位分類>自動詞</下位分類> </文法>
<意味><item>落ち穂拾いをする.</item>
<item>情報を少しずつ収集する.</item>
</意味>
</項目>
```

また、別な書き方、例えば図5のように書けるかもしれません。

図5

```
<entry lemma="glean">
<gram type="動詞">自動詞</gram>
<usageList>
<usage>落ち穂拾いをする.</usage>
<usage>情報を少しずつ収集する.</usage>
</usageList></entry>
```

XML などのマークアップ言語を使った表現では、ひとつの意味を複数の方法で記述(表現)することができます。一つの決まった書き方があるということはありません。これは、大きな問題です。思い出して下さい。XML はデータ交換を行うためにも使われます。ところが、このようにひとつの情報でも複数の書き方があるのでは、上手く情報交換ができないことになります。そこで、考え出されたのが、前回紹介しました「スキーム」です。スキームには、どのような情報がどのように表現されているか定義されています。つまり、ここの例でいうと、スキームには、図3の情報を図4で表現するのか、それとも図5で表現するのか定義されています。このように、書かれている様子をまとめたものを「記述モデル」といいます。つまり、スキームとは記述モデルのことです。

マークアップ言語では、もうひとつ重要なモデル、「参照モデル」があります。参照モデルとは、異なるもの同士を比べるときに使う共通のものさしの役目を果たすものです。例えば、図2にある英語 glean と日本語の単語と比べてみましょう。比べるときには、必ず基準が必要になります。例えば、A と B の大きさを比べるのか、価格を比べるのかなどです。ことばの場合では、文字数、関連語数、使用頻度など、色々な基準が考えられます。今回は意味で比べてみましょう。すると、例えば、図7の様な関係が得られます。



このように、比較するとき共通してお互いが参照し合う土台を「参照モデル」といいます。参照モデルは、比較するところで使われますから、意味モデル上でも記述モデル上でも使われます。また、今回の話には出てきていませんが、プログラミングレベル上の参照モデルもあります。例えば、XML でいえば DOM がこれにあたります。この話は、また別の機会にしましょう。

面白いことに(?), 一度意味が記述されれば、それはもう記号側のものとなり、モデル化の対象となります。マークアップ言語では、記述とモデルが互いに立場を変えながら、ミルフィーユの様に何層にもわたり役割が入れ替わっていきます。これが見極められるようになると、もう初心者ではありません。

本や文書の 電子化に興味

野本 光志
Koshi Nomoto

私は司書の資格を取りたくて鶴見大学に入りました。そして、入学して2年経った今、デジタルドキュメンテーションコース(DDコース)に進もうと考えています。

私は将来、本や文書の電子化もできる司書になりたいと思っています。それは、授業の中でXMLやHTMLなどに触れて、タグをいじることに興味を持ったからです。タグで操作することで、文章の表示のされ方をいろいろと、即座に変えることができることにとても面白みを感じたからです。タグによって文字を大きくしたり、小さくしたり、色をつけたりと様々なことができます。私はこの技術を使って、さまざまな本や文書を電子化してみたいと思うのです。

だから、私はDDコースに進み、XMLやHTML等、電子化に必要な知識をもっと学びたいと考えています。先生方は、「本や文書の電子化は、細かいところがたいへん難しい」ということを授業で仰っていました。それでも、それだからこそ、今自分にできる勉強は何でも積極的に挑戦していこうと思います。

また、パソコンだけでなく、司書の勉強もおろそかにならないように両立したいと思っています。

今の私は、まだ知識不足ですが、残された大学生活の2年間で、やるだけはやってみようと思います。2年後の自分がどうなっているのか楽しみにしながら、一日一日しっかりと、悔いの残らない生活をしていきたいです。

コース選択

LAコース/DDコース

学生の声・2年生

夢を 叶えるため

森下 真代
Mayo Morishita

将来は化粧品会社に就職したいと、私は思っている。商品開発に興味があり、自分の開発に携わった商品を、より多くの人に喜んで使用してもらいたいと思う。

仕事に就いたら、人前でプレゼンテーションをしたり、人気の商品を調べ、集計したり、インターネットでお客様の声を集めたりすることになるのではないかな。また、お客様に信頼していただくために、ホームページを作成し、会社のこと、商品のことをよく知ってもらう必要があるだろう。

将来の夢を叶えるために今私がすべきことは、この2年間で学んだことを復習し、DDコースに進むことだと思う。

2年生で、私はアプリケーション演習Ⅰという授業を履修した。この授業では、毎回のように課題が出され、パワーポイントを使用して、プレゼンテーションをした。最初は、緊張して画面を見ながら話すことしかできなかったが、今では堂々と話すことができるようになり、パワーポイントもうまく使いこなせるようになってきた。プレゼンテーションはどんな企業に就職しても行うことで、今のうちから人前で調べたことや自分の考えを発表する練習は大事なことだと思う。

DDコースに進んだら、基礎知識から先端的な知識や技術について学ぶことができるので、将来の役に立つだろう。夢を叶えるためにも、大学生活を、勉強に励んで過ごしたいと思う。

このドキュメンテーション学科に入ったのは、司書になりたいと思ったからだ。

卒業と同時に司書の資格が得られるが、それだけでは司書の仕事に就くことはできない。この学科に入って、授業を受け、折に触れて現実を知らされる度、どうしたものかと考えた。たとえどれだけ努力しても、司書の仕事に就けない可能性は高い。

なぜ私は司書になりたいと思ったのか。思い返してみれば、本を読むのが普通の人より好きだから、本に囲まれた雰囲気が好きだから。そんな程度の、ぼんやりとした理由でしかなかった。本を読むと言っても、読むものは主に現代小説やファンタジー小説が中心で、読書範囲は狭い。

それでも、この好きだという想いが無かったら、今の私はもっと方向性が決まらず、途方に暮れていたに違いない。この分野に興味があるという指向さえ無かったら、選択の幅はいつまで経っても狭まらない。

司書になれなくても、本に関わる仕事に就きたい。それであるならば、図書館学の知識は役に立つのであり、ドキュメンテーション学科に入ったことは無駄にはならないはずだ。

私は、ライブラリーアーカイブコース(LAコース)に進むと決めている。どんな授業が受けられるのか、まだ詳しくはわからないが、LAコースの方がより深く図書館学を学べるのではないかと思っている。パソコンのことをもっとよく知りたいと思う気持ちもあるし、書誌学も面白い。けれど、やはり図書館学を優先したいという気持ちが強い。

図書館学を 学ぶ

清水 杏子
Kyoko Shimizu



積極的な行動を 目標に

千島 里織
Saori Chishima

入学する前、会う人誰もが「大学の一年はあっという間」と言います。今までそんなに気に留めていませんでしたが、いざ一年を過ごしてみると本当にあっという間なのだと実感しました。

新しい学校生活の中で学んだことは、まずレポート類は後に後に溜めないこと。まだ大丈夫、頑張れば一日か二日で終わるだろう、と思っている間に提出日の数日前。確かに頑張れば終わるかもしれませんが、頑張るタイミングがいつも遅い…今後は、後悔しないよう余裕を持つことを心掛けようと思いました。

また、興味・関心を追及することは日々の充実へと繋がり、大学生活がより良いものになるということに気付きました。志望動機の一つでもある鶴見大学の図書館は様々なジャンルの資料があり、新たな知識を得ることができ重宝しています。

入学前と入学後しばらくは「友達はあるだろうか」「授業について行けるのだろうか」と不安だらけで、勝手な思い込みで大学が嫌なものになっていきました。しかし、実際に生活してみると案外嫌なものばかりではなく、前に述べた通りうまく順応して自分なりの楽しさを見つけられた気がします。

一年が終わろうとしている今でも不安は多いですが、大学という場所をどう活用していくかが将来への鍵になると思いました。努力を惜しまず、日々成長していけるよう頑張りたいです。

努力の実感を

岡田 玲
Rei Okada

私の大学生活はもうすぐ一年が経とうとしています。高校とは違い、自由があるものの毎日が慌ただしくて、これほどまでに充実した生活を送れるなんて入学当時には思いも寄りませんでした。授業に積極的に参加し、サークルに入り、私は私なりに日常を楽しみました。

しかし、充実していたのはあくまでそういった目に見えるものだけでした。入学から今までを通して振り返ってみると、どうしても勉強に対する充実感や達成感があまりない気がするのです。

それは物事を結果主義に考える所為でした。課題制作や試験勉強はいつも締め切りギリギリにならないと真剣にならない上、必要最低限の努力で終わらせてしまっただけでした。そんなのでは中途半端な知識しか残りません。

「疑問に思わない」「興味を示さない」——大学に入る前は、専門の知識を得て資格を取るのだと意気込んでいたのに、今の私はそんな風にただ何もしないで時間を無駄遣いしているだけです。それを自覚した時、私はいつしか「何の為に大学に行っているんだ」と言われる事を恐れるようになり、どうにかしなければ、と考えるようになりました。

自分の決めた目標に向かって努力している実感が得られるようにしたい、切り替えが出来るようにしたいと願望はいろいろありますが、今の私にはもっと遠くを見て、常に真剣に向き合う必要があります。生活に慣れて安定してきたからこそ、これからの大学生活を通して徐々に改善していきたいと思います。

一年間を振り返る

まだまだ甘い

稲垣 康寛
Yasuhiro Inagaki

鶴見大学に入り、もうすぐ一年が経とうとしています。最初は大学の授業ついていけるかなど不安もたくさんありましたが、それは一か月くらいで解消されました。

この一年を振り返って思ったことは、「楽しくは過ごせたけど、まだまだ甘い」です。自分はこの大学に入る際に「よく学び考え、よく楽しむ」という目標を掲げました。しかし実際は「楽しむ」の部分が先行し、「学び考える」の部分をおろそかにしてしまった感じがします。特に将来についてまじめに考えなおさなければならないと感じました。

自分はこの大学に学校推薦で入りました。その際「将来は司書資格を取って図書館司書になりたい」と言ったのですが、大学が始まってから、それが分からなくなってきました。確かに司書になりたいという気持ちは今でもあるのですが、あくまで司書と言うのは可能性の一つであり、それが一番将来になりたい職業なのか疑問に思い始めました。

大学生活も残り三年となりました。三年というのは結構あるようで意外と短い時間です。この大学生活を悔いの残るものにならないためにも、習得できるものはしっかり手に入れ、より充実した大学生活を送りたいと思います。



就職活動・資格取得

就職活動奮闘中

前原 志帆
Shiho Maehara

就職活動を早くやれば良かったとは、就職活動を終えた者達が口をそろえて言うことである。それを知っていたにもかかわらず、それを実行しなかった私は愚かであった。

大体10月位には就職情報サイトが公開になり、その頃から就職活動を意識し始めるものではあるが、そうは思いつつも「まだいいか、忙しいし。周りはみんな就活まだはじめてないっていうし」などついで、先延ばしにしてしまった。だが、就職課が発行している「就職の手引き」にも3年の4月から自己分析を行うように書いてある。早すぎる位に思うが、確かにこれくらいからやっておけば間違いはなかったはずだ。

就活をやっているのは、鶴見大学の学生だけでない。当然のことながら、他の大学の大学生も居るのである。敵は鶴見大学にあらざである。他大学の3年生と喋っていると本当に他の人たちは早く動いている。なので、就活に関しては同じ大学の友人よりも、他大学の友人と話し合った方がよい刺激になると思う。

筆記試験対策も重要だ。筆記が通らないと面接もしてもらえないことが多い。筆記試験の数学系の問題は、以前に勉強していてできるはずなのに、これが意外にも忘れていて、できなかつたりするのだ。このように例外にもれず私もいろんなことに対して「やはり早くやっておけばよかった」と現在後悔しているところである。



資格で得た自信

和田 晃
Akira Wada

今までの大学生生活3年間は野球しかやってこなかったので、ドキュメンテーション学科に関する資格を取りたいと思ったのがきっかけで「情報検索基礎能力試験」を受験しました。

私が本格的に勉強を始めたのは、試験から約1ヶ月前くらいからで、ちょうどその頃、先生から試験の話聞いて、受験してみようと思いました。受験するにあたって、参考書を購入し、毎日過去の試験問題1年分の問題をやり、間違えた問題のところを参考書で見、分からないところをなくすやり方でやりました。毎日1時間ちょっとしか勉強しませんでした、その時間を集中して行ないました。毎日行なうことが重要であり、要点を決めて勉強しました。

試験が終わってから1ヶ月後くらいに合格通知が来て、とてもうれしくて、自分がやってきたことに自信がつかしました。

資格取得で得た基礎知識を活かして、4年次のゼミでは、情報を有効活用する能力を磨き、さらなるステップアップを目指して、勉強していきたいです。

なお私は、教職の授業を履修しているので、情報の先生として、教壇に立つことを目標にしているので、そのためにもこういった試験を受けて、役立てたいと思いました。

今回得た資格を自信に、今年の卒論などに活かしていきたいです。

■資格合格体験記

情報検索応用能力試験2級へ2度目の挑戦

森谷 奈保子 Naoko Moriya



前年は不合格、今回は2度目の挑戦なので、「情報検索応用能力試験2級」の合格通知を受け取った時は本当に嬉しかったです。今年は卒業論文などもあり、思うように勉強が進まない時もありました。でも、試験直前まで原田先生が行ってくれた勉強会と、夏に参加した「サーチャー講座21」の存在はとても大きく、支えになってくれました。受験仲間と共に行う勉強は、お互いの疑問点を理解しあう事が出来、とても良い勉強になりました。



金子俊・白倉弘崇・平野秀和・小泉心平・北村亮・早川裕行
上田唯・中村紗代香・古市真美・大木奈々絵・亀岡里紗

ドキュメンテーション学科での正規授業としてのインターンシップも3年目となりました。今年度は11名の学生が、夏休みの期間を利用して働く体験をしてきました。10月27日には、実習先の企業の担当者の方々をごお招きし、報告会を開催いたしました。学生たちのプレゼンテーションに、大きく成長した姿を確認できました。

この度、学生たちがお世話になりました企業は10社の企業（五十音順・括弧内は実習生）です。誌面上ではありますが、ご協力に深甚の感謝を申し上げます。

株式会社一蔵 [金子 俊]

神奈川新聞社 [上田 唯・亀岡 里紗]

JFEテクノロジー株式会社 [中村 紗代香]

株式会社データプロセスサービス [北村 亮]

株式会社富士通ワイエフシー [平野 秀和]

長田電機工業株式会社 [古市 真美]

株式会社紀伊國屋書店 [小泉 心平]

株式会社樹村房 [大木 奈々絵]

株式会社西田書店 [白倉 弘崇]

株式会社みずほ野 [早川 裕行]

インターンシップの報告

平成20(2008)年度

株式会社富士通ワイエフシー

平野 秀和

インターンシップでの経験を通して私は多くのものを得ました。それまでの抱いていた『会社』に対する慌ただしく忙しいというイメージが一変しました。実際に仕事を体験して、難しさや、責任は勿論ですが、やり遂げたときの達成感も感じられました。ですが、一番強く感じたのは、仕事は一人一人の分量が少なくても、それが数多く集まって大きな“成果”になっていく。それを改めて働く事を通して思いました。このインターンシップの経験と思い出を、就職活動に生かして生きたいと思えます。最後に、心のこもった挨拶はする側も、される側も気持ちがいいものです。出逢いは“始まり”です。挨拶はその第一歩です。

株式会社データプロセスサービス

北村 亮

私は、ソフトウェア・システム開発会社であるデータプロセスサービス様へインターンシップ生として受け入れていただきました。2週間という短い時間でしたが、業種説明をしていただいたり、ホームページ作成を行ったりと充実した業務でした。また、大学で私がまったく教わっていないプログラムを毎日黙々と組んでいる方を見て、知識や技術を身につけることはもちろんですが、仕事をするにはまず「根気」が大事なのだとあらためて感じました。現在就職活動を始めたところですが、インターンシップの経験は役に立っていると思えます。ぜひ参加してみてください！

株式会社一蔵

金子 俊

私は大学生活で自分から何かをするといった行動をしていませんでした。そんな時に部活の先輩からインターンシップの話聞き実際に職場で働くことができるということに興味を持ちインターンシップに参加しました。実習先では振袖のレンタル、着物や結婚式などの色々な事業の体験をさせていただきました。やることすべて未知のもので、最初は自分から動いて仕事をするのができなかったのですが実習を重ねていくうちに自分から前へ行くことができるようになりました。私は自分から行動をしていく力を知ることができ、そして仕事とはすばらしいものだと感じました。

株式会社樹村房

大木 奈々絵

社会人として、また、人とコミュニケーションをとるという点についても、自分から積極的に行動する事がとても大事なのだと感じました。今回の経験で、出版社・印刷所・取次会社の仕事の内容を明確に知ることができ、今後の就職活動をしていく上での参考になりました。また、社会人の方々とご一緒に作業をさせて頂いた事で、社会人になる心構えとして何が必要なのか、現在の自分には集中力が足りないのでは、と考える機会を与えて頂けたと思います。10日間という短い期間でしたが、様々な事を見聞き、体験させて頂きました。その全てが興味深く、知識を更に深める事ができ、とても実りの多い有意義なインターンシップになりました。

JFEテクノロジー株式会社

中村 紗代香

企業図書館での仕事はもちろん初めてでしたので、実習先の方々にはご迷惑をかけたと思います。商用データベースで実際に検索させていただいた時は本当に緊張しました。英語の略記に苦戦しながら行った文献検索もとても印象に残っています。失敗しながらではありますが、本当にたくさんのことを学べた10日間でした。インターンシップは学生の内に社会を経験できるとてもいい機会だと思うので、後輩の皆さんにもぜひ参加して欲しいと思います。

株式会社紀伊国屋書店

小泉 心平

私がインターンシップを履修した理由は、大学生のうちに実際の社会に触れておきたいと思ったからです。また私は司書課程を履修しており、実際の図書館運営に興味があると同時に図書の流通、書店での図書の流れと書店と図書館の繋がりを見てみたいと言う理由からこの二つが同時にインターンシップで体験する事ができる株式会社紀伊国屋書店様をインターンシップ先に選択しました。その結果、私が見たかった図書の流通と図書館運営の裏側を見れると同時に多くのことを知る事ができました。その反面、自分にはまだまだ社会人としての知識が不足していることも知ることができ、今後の就職活動に多いに役立つ経験をすることができました。

平成 20 (2008) 年 8 月 - 21 年 (2009) 3 月

ドキュメンテーション学科・学会活動報告

8月30日(土)

司書・司書補夏期講習共催

第5回鶴見大学デジタルライブラリー

国際セミナーを開催



米国ケンタッキー大学研究図書館副館長のトニー・グレイダー氏を招聘して開催。氏は、「生まれたときから Web の時代を生きており、コンピュータ技術が生活の一部となっている、1989 年以降に生まれたミレニウム世代が大学に入学してくる時代になり、大学の図書館は彼ら・彼女らに対応できなければいけない。そのために、図書館は「書庫」から「人の交流の場」に変わる必要があるだろうし、さらに図書館は多くの種類の電子資料を扱うことが求められている」と指摘しています。

11月6日(木)

堀川貴司教授

茨城県立水海道第一高等学校で出張講義

ホームページでご案内をしている「出張講義」の第 1 号として、堀川貴司教授が「昔の本を読んでみよう」と題して、授業を行いました。内容は、くずし字の写本と版本の『徒然草』を読んで、その表記やレイアウトの違いを考える、というものでした。また、江戸時代の版本を数点、手にとって見てもらいました。参加

した 17 名の生徒さんは大変熱心で、古典籍に興味を持ってくれたようです。

2月3日(火)

後期 PC 補習を実施

1 年生を対象に、MS-Excel の基本から、串刺し計算やデータベース関数の使い方等を学びました。専門科目が増える 2 年生になる前に、1 年間で学んだことを復習し、しっかりと身につけてもらいたいと思います。

2月6日(金)

神奈川新聞社を見学



1 年生を中心に、神奈川新聞社へ見学会へ行きました。取材、原稿作成、編集会議等を経て読者の手に届くまでの過程を、ビデオを見せていただきながら詳しく説明していただきました。また、紙面レイアウトの体験もさせていただきました。

2月23日(月)・24日(火)

卒業生がノート PC を返却

入学時に貸与されたノート PC を返却しました。卒業式を前に 4 年生が集まるのもこれが最後の機会。返却手続きが終わった後も、多くの学生が残り、大学生活の思い出を語り合っていました。

※活動報告の詳細は学科ホームページ (<http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>) でご覧になれます。

■第 9 号は 7 月末の発行の予定です。原稿・写真を募集しています。編集委員へお問い合わせ下さい。

■編集委員

[学生] 水島 康^{2年}・山内悠加^{1年}・稲垣康寛^{1年}・中島史織

[教員] 岡田 靖・伊倉史人

ドキュメンテーション 第 8 号

平成 21 (2009) 年 3 月 16 日 (月)

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会

横浜市鶴見区鶴見 2-1-3 (〒230-8501)

☎ 045(581)1001 (代表) 発行責任者：原田 智子

学科ホームページ：<http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>